

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0791400039 | | |
| 法人名 | 株式会社マインド | | |
| 事業所名 | グループホーム まいんど万世二番館 | | |
| 所在地 | 福島県本宮市本宮字万世134-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年10月31日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年4月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年12月14日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念を基に、振り返ることを大切にしながら、ご利用される方の生きがいと笑顔を大切に支援しています。今までの支援に満足せず、地域に溶け込めるよう、職員からの意見を取り組みながら、職員と一緒に楽しむ事ができ、利用者様が活き活きできる支援の共有に努めています。今年度も地域の方、ご家族様に参加して頂き敬老会を開催する事が出来ました。また今年は「まいんどパーク」という地域交流公園を整備し、地域の方にも開放しています。利用者様には散歩や余暇の時間に活用して頂き、おやつと一緒に食べることがあります。時折、子ども連れの家族が遊びに来られることもあり、自然に利用者様と触れ合う機会が持っています、今後さらにあたたかみある事業所を築いていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 事業所は開設時より地域とのつながりを大切に事業運営を展開しており、地域と事業所の行事には相互に参加し日常的に交流している。さらに高校生のインターンシップや中学生のサマーボランティア等を受け入れ、幅広く交流している。また、今年度は敷地内に地域交流公園(まいんどパーク)を設置したことに伴い、さらなる地域との交流の拠点となるよう取り組んでいる。
 2 協力医療機関及びかかりつけ医とは日頃から連絡を密にしており、往診の対応もある。また看護師が配置され健康管理や医療面でも安心して過ごせる環境である。
 3 職員の異動が少なく、職員と利用者の信頼関係が培われており、穏やかな雰囲気のある事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝、夕の申し送り時、スタッフ会議時に唱和を行い、共有し会議時の支援の方向性を理念に照らし合わせ話し合っている。自己選択と決定を意識し、食事のメニューを決めて頂いたり、外食時にメニューを見て選んでいただいたり、畑に植える野菜を選んでいただいたりと日常の支援につなげている。 | 「法人理念」「事業所理念」には利用者が地域住民とともに笑顔で暮らしていくことをうたっており、全職員で毎日の引き継ぎ時やスタッフ会議等で唱和しケアの実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に入り、地区のサロンに参加している。また、回覧板と一緒に届けたり、地区のボランティアに演奏会をしに来ていただいたりしている。 | 事業所内にはコミュニティルームがあり、地域の人々との交流の場となっている。また、地域包括支援センターの認知症カフェや地区のサロンに出かけ交流している。事業所の敬老会には近隣にチラシで呼びかけたところ地域住民やボランティア等多くの方の参加があった。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 本宮市認知症ケア連絡協議会に参加し、地域の人々、介護職員向けに勉強会、公開講座を企画し運営している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | 本宮市における水害の被害状況や現在の状況を委員の方に確認し、水害時の避難経路を一緒に考えて頂いている。また、避難訓練にも参加いただきアドバイスを頂いている。 | 定期的に開催しており、利用者や職員の状況、行事報告、各種委員会活動状況、研修会参加報告等報告されており、委員から様々な意見や提言がある。これらは「スタッフ会議」に話し合い、事業所運営やサービス向上に反映させている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 本宮市認知症ケア連絡協議会の中で、事業所における取り組み状況や困難事例などを伝えたり、グループホーム協議会での取り組み状況を伝えたりし、お互い出来ることを協力している。 | 市の担当者とは事業所の状況報告や利用者の相談を行い、常に協力関係を築いている。また、市主催の「認知症ケア連絡協議会」等の機会を通して、関係が構築されている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | スタッフ会議時に、身体拘束廃止委員会の委員による身体拘束廃止に向けた取り組みとして職員に周知を行ったり、社内研修会を開催している。 | 「身体拘束廃止委員会」が中心となり、研修会等を通して拘束の弊害について全職員が周知している。また、「言葉による拘束の弊害」については今年度の目標として、全職員が意識の共有を図り日々のケアで実践している。日中玄関の施錠は無くセンサーや職員の見守りに対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 身体拘束と一緒に高齢者虐待について学んでいる。特に言葉使いには気をつけ、命令口調にならぬよう注意を払い、防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 独居で身寄りのいない利用者様が任意後見サポートとエンディングサポートの生活支援事業を活用し、関係者とも話し合い支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 申し込み時に不安や疑問を確認し、説明している。その後も実調の際に説明、契約の際に説明している。改定の際は、改めて重要事項説明書や同意書をもって説明し、理解して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年一回のご家族様アンケートを実施し、その内容を職員で共有しまとめ対応として返答している。また玄関にご意見箱を設置している。 | 利用者からは日常のケアの中で意向や要望を把握している。家族の訪問時や事業所行事に参加した機会をとらえ意見や要望の把握をしている。出された意見や要望は「スタッフ会議」で検討しサービスや事業所運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議時に意見や提案を聞き検討している。また職員と個別に話し合う場を持ち、日々の支援につなげている。代表者へは提案書を提出し伺っている。 | 月例の「スタッフ会議」において職員の要望や意見等を把握しており、さらに管理者は年1回全職員の個別面談を行っている。また、管理者と職員は日頃から何でも話せる環境となっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課制度を運用し、職員個々の状況を把握できるようにしている。人事考課制度の内容も今年度は見直しを行い、より良い制度運用に向け取り組んでいる。また、社内研修や社外研修を通して職員が学べる環境を作っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 今年度は法人内での研修会を1回追加し、交流及び人材育成に向け力を入れている。また地域密着型事業所内での研修会を開催し多くの職員が学ぶ機会をもてるよう、取り組んでいる。その他にも外部研修にケアの力量、経験を把握し進めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会に入会し、管理者は地区の管理者情報交換会に出席している。また、事業所の大きな行事に、他事業所に声かけし、ボランティアとして参加し、交流を図っている。今年度は新たに本宮市認知症ケア連絡協議会に入会し、市、包括、地域の他事業所と協力し、研修会や公開講座を企画運営している。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | まずは見学していただいている。入居前に実調を行い、その際に不安や困っていること、要望をご本人様、ご家族様に確認し、その意見を基に支援の方向性を決めている。また、その情報を入居前に職員に周知している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 申し込み時に見学をしていただき、不安や要望を伺っている。また、実調の際にも再度確認するとともに、頂いた意見を入居後のサービスの方向性につなげている。他の介護事業所を利用していた場合は、そちらのサービスの状況もよく確認し、連携をはかり不安感のないように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 実調を行い、ご本人様、ご家族様から頂いた意見とセンター方式を活用した基本情報を基に必要としている支援を見極める努力を行い、支援に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員が一方向的に物事を決め支援するのではなく、ご本人に確認し、選んで頂けるような支援に努めている。行事の準備などできることは一緒にして頂いたり、車椅子の方の移動介助を職員が見守りの下して頂いたり、一緒に暮らす者同士、ともに同じ時間を共有して頂けることを大切にしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 誕生日会や行事には、ご家族様にも参加いただけるよう、案内や声かけを行っている。行事の際には共同作業として、昼食のおにぎりづくりなども企画している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 近所の理髪店や以前利用していた理髪店を継続して利用して頂いている。また地域の祭りや、おやつを買いに地域のお菓子屋に行ったりしながら、地域とのつながりが切れないように努めている。 | 馴染みの理美容院の利用や外食、買い物等には家族の同行を基本に支援しているが、訪問理容も受け入れている。知人の訪問があり、これまでの関係が途切れないよう支援している。また、家族の協力を得て外出や外泊等も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 畑仕事が好きな方と、誰かの役に立ちたい方と一緒に畑を耕したり、種をまいたり、収穫したり、採れた作物を眺めたり、とそれぞれが出来るところを担当し、お互いが楽しめ、支え合えあえる支援に努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用終了後も、ご家族様から介護についてのご相談があったり、入院されている場合は面会に行ったりと断ち切らない支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式を活用し、ご本人様の思いを聴くように努めている。また日々の支援の中で話されたことを記録に残し、その内容を基に検討している。スタッフ会議時でもどのようなことを望んでいるのか？どのようなことを好むのか？を考え、共有することに努めている。 | 職員は部屋担当者制をとっている。一人ひとりの生活歴等はセンター方式の一部を利用して把握している。日常会話や家族の情報等から思いや暮らし方希望・意向を全職員で把握している。菜園で野菜作りや縫い物・編み物・刺し子など、希望に沿った支援が出来るよう取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 実調時に、ご本人様、ご家族様に暮らしの様子や、生活環境、他のサービスの利用状況を確認し、他の介護事業所を利用していた場合は、情報を頂いたり、実調に立ち会っていただいたりと、これまでの暮らしを把握することに努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 以前の暮らしの情報を基に、入居後はセンター方式の24時間シートを活用し、過ごし方や心身の状態変化に視点をおき、有する能力の現状把握に努めている。場合によっては事業所で作成した12時間シートを活用し、より詳しく状況の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月、居室担当、リーダー、介護支援専門員が必ずモニタリングと課題を話し合い、その中でも重要で、他の職員と共有し解決していかなくてはならない事、ケアプランが変更になる時期にはスタッフ会議時に上げ、多くの意見やアイデア、情報を得ながら作成している。 | 利用者の現状把握を十分に行い利用者本位の介護計画を作成している。個別記録・申し送り書等をもとにサービス担当者会議を開催し、利用者の状況を詳細に出し合い課題解決に向けて話し合い、現状に即した介護計画の見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の記録に実践したことや気付いたことを記入し、いつもと違うときは申し送り時に話し合っている。またスタッフ会議時にはうまくいかない点や変わった様子などを話し合い検討、見直しを図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 回覧板を一緒に届けたり、昼食を希望に合わせてお弁当を買ってきたり、協力医療機関以外の病院であっても職員が同行し対応している。また看取りも対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地区の方々によるフットケアのボランティア、演奏会、子供たちによる演劇会、ハロウィンで仮装し回ってもらったりしている。そのお礼に利用者様と職員と一緒にお菓子を準備したり、お礼の言葉を送ったりと交流を図っている。地区のサロンにも参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時にこれまでの医療機関を継続するか、協力医療機関にするかご本人様、ご家族様に選択して頂き安心して頂けることを大切にしている。また受診も職員が同行し、場合によってはご家族様の同行や、ご家族様による受診等、状況や状態により協力しながら支援している。 | かかりつけ医の受診には家族対応を基本としている。協力医療機関の受診には職員が同行している。受診時には利用者の日々の状態を報告し、適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果は相互に報告し合い、情報の共有をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 社内の巡回看護師が定期的に訪問しており、利用者様の様子や状態を相談している。必要に応じ受診も対応して頂いている。またスタッフ会議にも参加し、医療的な説明、アドバイスを受け、受診へとつなげている。看取りの際は、訪問看護師、事業所の看護師とも連携を図りチームとして支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際は情報提供書を渡すとともに、日々の様子を申し送っている。面会に伺い、経過や状況を確認している。相談員とは連絡を取り合い、退院の時期や退院後の支援に向け話し合い、連携を図ることに努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に、重度化対応・終末期ケア対応指針を基に説明し、同意を得ている。また今現在の状況とお互い確認し合っている。状況が変化した場合は再度ご家族様、介護支援専門員、看護師、リーダー、管理者、医師と話し合い意向の確認と意思の共有を図っている。 | 重度化対応・終末期ケア対応指針を策定しており、利用時に協力医療機関による支援体制を取っていることを説明し、「同意書」を取り交わしている。状態に変化があった場合、再度家族と話し合い意向を確認して、協力医や職員が連携を図りながら家族の意向にそって対応している。今年度は医師・看護師・家族の協力を得ながら全職員が一丸となって看取りを実践した。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 普通救命救急の講習会を開催し、受講している。不安な部分は看護師や職員間で確認し合って対応できるよう努めている。その他にもAEDの使用法、嘔吐物処理方法の勉強会を行っている。看取りの際は別途急変時の対応を作成し、スタッフ会議時に説明している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 事業所内の訓練と消防署立ち合いでの訓練、運営推進会議員の参加による訓練を行っている。今年度は水害時の避難場所までの経路と判断の基準を職員間で共有している。災害時の備蓄品や物品の見直しもしている。 | 消防署立ち合いの避難訓練や隣接する共同事業所と合同で防災訓練を実施している。事業所独自の避難訓練や消火器使用方法・通信訓練等を2カ月に1度実施している。また、新人職員に救急救命講習を受講させている。非常時対応として米・水・レトルト食品・缶詰・ガスコンロ・ストーブ等を備えている。訓練には運営推進委員や地域住民の参加があり、協力関係を築いている。 | 災害時に全職員が利用者を安全確実に避難誘導できるよう数多く訓練を重ねられることが望まれる。実施後は記録を作成し反省点や問題点を明確にしておくことが必要である。また、事業所としてあらゆる災害の初期対応について全職員で検討することが望ましい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 他の利用者様にも配慮した言葉かけや対応をしている。トイレ誘導の際や、職員間で確認し合う時も大きな声で、他の利用者様に気付かれないように心がけている。家事の支援をして頂くときも頼るようにお願いし、終了後は感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。 | トイレや入浴の誘導時には本人の人格を傷つけないよう穏やかな言葉かけや対応に配慮している。利用者の個人情報冊子は施錠可能なキャビネットに保管している。広報誌に載せる写真は利用者および家族の同意を得たものを使用している。法人講師による接遇マナーの研修を実施している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 事業所で献立を決める日は、利用者様に何が食べたいかを確認したり、広告をみて選んでもらったりしている。衣類もどれがいいか選んでもらったり、入浴も利用者様に確認し入りたい日、時間を選んでもらっているようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様が過ごしやすい場所できつろげる様に、居室、和室、リビング、事務所と自由に行き来していただいている。天気の良い日はテラスで過ごしたり、あずまやへ行っておやつを食べたりしている。朝の起床時間や夜の就寝時間もその方や、状況に応じて個々に合わせ対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時は整容に気を配り、寝ぐせを正したり、髭剃りの声かけや介助を行っている。女性の利用者様にはマニキュアを塗ったり、化粧をしたりすることもできるように支援に努めている。髪の毛のパーマやカラーリングをご家族様の協力を得ながら行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 一緒に台所に立って食事を作ったり、買い物に行く際は献立を考えていただけるよう声かけに努めている。また外の畑を活用し、育てるところから、収穫、調理、食べるといった支援に努めている。行事食や外食と一緒に食事をとり、楽しんでいただけるよう努めている。お弁当を選んで頂き、買って来て皆で食べることなどもしている。 | 献立表や食材購入は業者を利用しているが、週2回は利用者の希望を聞き、事業所独自の食事となっている。利用者は野菜の下処理や配膳等できる範囲内で職員と一緒に楽しみながら行っている。利用者の体調により刻み食やおかゆにも対応している。外食の機会も多く、気分転換を図りながら楽しく食事ができるよう支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 週二回以外は配食サービスを利用しているため栄養のバランスは取れている。水分は摂取量を記録し確保に努めている。体重の増減も確認し、医師と相談し量も検討している。また一人ひとりの好みに合わせ、好きな物を召し上がっていただけるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 洗面台でして頂けるよう声かけし、出来るだけ利用者様にして頂き、足りない部分のみ介助することに努めている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を基に声かけし誘導を行ったり、ご自身で行っていただいている。現在、布パンツの方もいらっしゃるが、状況に合わせて、リハビリパンツで対応したり、場合によっては一時的にオムツを使用する等、状況に応じ対応している。パットも状況合わせ、必要であるかどうか検討し、随時使用ではないように努めている。夜間のみポータブルトイレ使用などの工夫もしている。 | 排泄チェック表から利用者個々のパターンを把握しさり気ない言葉かけで誘導し、トイレでの自然排泄を目標に支援している。また、時間帯や身体機能状態に合わせて排泄用品を変える等、自立に向けた支援をしている。リハビリパンツ等の使用軽減につながった方もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | おやつに繊維の多いものの工夫をしたり、乳製品を個別に提供するなどしている。必要に応じ、医師の指示のもと下剤を使用し、場合によっては看護師による浣腸の実施を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日や時間を決めず、入浴の声かけをし、今入浴したいか確認してから入って頂くようにしている。また季節ごとの菖蒲湯やリンゴ風呂、ゆず風呂、入浴剤を利用し楽しんで入浴できるように心がけている。嫌がる方へは更衣だけのお誘いをし、お風呂場を見て頂き、その気分になって頂けるよう努めている。場合により、足浴や清拭を行っている。 | 入浴日や時間は利用者の希望により対応している。入浴拒否者には担当者・時刻・話題などを変えながらやさしく誘導し入浴していただいている。お湯は一回ごとに入れ替え、好みの入浴剤を使用したり、季節感のある菖蒲湯・リンゴ湯・ゆず湯等も楽しんでいる。入浴できない方には足湯・シャワー浴・清拭等で対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼間はできるだけ活動し、午睡も長い時間はせずに夜間休めるようにしている。また就寝前の足浴や、寝具類の清潔などで、気持ちよく休めるように努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人ごとに内服している薬の表を作成し、管理している。また作用、副作用についての理解に努め、簡単にまとめた表を台所に貼り出して、職員が理解すること、間違いがないように対策を講じている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々の生活の中で役割が持てるよう、できることを把握し、プランに盛り込み支援している。また定期的開催される地区のサロンや、ホーム内の行事でいつもとは違う楽しみで気分転換ができるよう努めている。事業所内でも簡単な体操を行い、楽しんで頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は戸外にお誘いしている。おやつをテラス、あづまやで摂ることもある。また、地域で開かれる芋煮会や、秋に開催される菊人形、本宮市のお祭り等には積極的に行くように努めている。また受診後には食事をしてきたり、誕生日祝いとして外食、ドライブなどを行っている。 | 好天時には事業所周辺の散歩を楽しんだり、地域サロンや認知症カフェに出かけている。地域の夏祭り・菊人形・花見・買い物等の外出支援をしている。また、共用スペースのベランダは広く、お茶会などで外気浴を楽しんでいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お小遣いを事務所で預かり、買い物時にご本人様に支払っていただけるように努めている。また、ご本人様の自己責任のもと、管理されている方もいらっしゃる、友人と外食して戻られる方もいる。状況に合わせて対応できるように努めている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族様に電話をしたいと訴えがあった場合は、ご本人様にかけていただけるよう支援している。かけ方が分からない場合は、こちらでかけて、電話機をお渡ししている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感のある飾りや行事、菖蒲湯やゆず風呂など行っている。エアコンの風の向きや、強さで不快に感じる方がいらっしゃるため、調整をはかたり、窓から入る光が強く感じる方もいらっしゃるため、ロールカーテンで調整することに努めている。職員による工作物を張り出すなどの工夫を取り入れている。 | テーブルと椅子のエリア・ソファエリア及び畳のエリアがある。共用空間から広いベランダに出られ、利用者は自由に日向ぼっこ等を楽しんでいる。ベランダのそばには小さな菜園と広い庭園が広がっている。机と椅子がゆったり配置され、過ごしやすい環境となっている。壁には利用者の行動写真や季節感のある作品等が飾られている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 特に決まった席は設けておらず、ご本人様がなれた席を選んでいただいている。リビングにはソファを設置し、くつろげるよう、また和室にはこたつなどを設置し、共用のスペースであっても、その日、その気分で過ごせるように努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている | 入居時に居室の環境について説明し、できるだけ居室には自宅で使用していた家具を持ち込んでいただいているご本人様が理解できるよう、タンスに入っているものを掲示したり、花やプレゼントなども飾りつけている。出来るだけぬくもりがある居室空間を意識し努めている。 | 居室はフロアにエアコン・換気扇・ベッド・ナースコールが装備されている。利用者は箆箆や椅子など使い慣れた家具を持ち込んで家庭的な雰囲気の中で生活をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | センター方式を活用し、今の現状の把握に努めている。その他でも気付いた点を基にスタッフ会議で話し合い、できることをプランに上げている。男性であっても台所に立って食事作りしていただいている。 | | |